

【今週の英語 / 母の日によせて】

MY MOM WEARS MANY HATS

A mother's many hats : Cook, Judge, Nurse,
 Doctor, Taxi Driver, Maid, Accountant, Student,
 Seamstress, Builder, Teacher, Gardener,
 Counselor, and most of all, Friend.

(wear many hats = 一人何役もこなす)

**【神に従った母の生き様から始まった母の日】**

母の日が5月の第2日曜日と決まったのは1914年、
 ウィルソン大統領当時のアメリカ議会においてでした。

その由来とはこうです。1905年5月9日、アンナ、ジャーヴィス (Anna M Jarvis) という一人の女性の母親が亡くなりました。その母親アンナ(同名)は子供の死亡率を下げるためにバージニア周辺の女性たちを組織して、湯沸かしの徹底、食品の腐敗防止法、傷の手当て等、衛生状態の教育と改善を指導しました。特に南北戦争時は中立を維持しつつ看護を両陣営に提供し、大勢の南北兵士たちの命を救いました。戦後は南北の亀裂を埋めるために尽力し「Mother's Friendship Day」という家族ピクニックを考案して、南北の母たちとの友情と祈りを元に地域の和解を勧めました。教会学校教師を熱心に務めていた母親が信仰を基盤にこれらの働きに取組んだことは言うまでもないことです。娘のアンナは自分を苦勞して育て、その時代にあって大勢の母親たちを組織して大きな働きをなした自分の母親を記念したい、また全ての母親たちの働きを覚える日を制定したい、という思いからウェスト・バージニアのグラフトンにあるアンドリューズ・メソジスト・エписコバル教会にて母親の記念礼拝を1907年に、さらに全ての母親のための記念礼拝を翌1908年から毎年行い、1910年にはウェストバージニア州で母の日の制定を果たし、ついに1914年には国の記念日として定められるのを見ました。最初の記念日に母が好きだったカーネーションを飾ったことがきっかけで、カーネーションと母の日が結びつきました。「母の日」は世界中に広がっていき、日本では大正時代、青山学院教授であったアレクサンダー女史によって紹介され、キリスト教関係団体を中心になってこれを広めました。因みに赤／ピンクは生きている母親、白はすでに召された母親を記念します。■

【今週の暗唱聖句】 ヤコブ4:6

神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵をお授けになる。

●「罪」と「高ぶり」は鶏と卵の関係にあって切っても切れないものである。アダムの罪は神の命令に従わないことであったが「命令違反」の本質こそ「高ぶり」そのものなのである。さらに「高慢」はいつも「愚かさ」を生み出す。ローマ1:21に「彼らは…神を神としてあがめず感謝もせず…自分では知者であると言いながら、愚かな者とな」ったとあります。神の御前でへのりくだりを忘れると「愚かになる」ことは聖書の教えの中核にある。逆に知恵と知識は常に「主を恐れる」ことから始まるのである。

●いくつかの御言葉

箴言18:12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は榮譽に先立つ。

箴言16:18 高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。

箴言11:2 高ぶりが来れば、恥もまた来る。知恵はへりくだる者とともにある。

詩篇147:11 主を恐れる者と御恵みを待ち望む者とを主は好まれる。

箴言1:7 主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

箴言3:7 自分を知恵のある者と思うな。主を恐れて、悪から離れよ。

箴言22:4 謙遜と、主を恐れることの報いは富と誉れといのちである。 ■

【先週のMESSAGEより】 約束の虹 創世記8～9章

●神はノアと…すべての獣や…家畜とを心に留めておられた／大海原のただ中で漂っていたノアたちを神は片時も忘れることがなかったのと同様、神は苦難のただ中にいる私たちのことを忘れておられない。●ノア一家はまず最初に主を礼拝した／苦難に相對する時、私たちは必要に迫られて祈るものだが、問題が解決すると神に感謝をささげることが忘れてしまうことが多い。箱舟から出たノアの家族が先ず最初にしたことは礼拝であった。私たちも彼らに習いたい。●礼拝＝正気でいられる唯一の道／神はノアの礼拝を受け入れながらも人間が考えることは最初から悪であると宣言している。礼拝の本質は神を恐れてへりくだることであり、礼拝こそ人間が正気であり続けるための保証となる。●人間の尊嚴の起源／人が神の形（イメージ）に似せて造られており、神がご自身の形を尊重されることが人間の尊嚴の起源。この土台に立つ時だけ、私たちは真に「人権」を尊重できるのである。 ■

【バベルの塔の史実性の考察／人種の問題】

●遺伝・遺伝子に関する研究が進み、今では遺伝子を解析することでどういう経路を辿って現在の人種が存在するようになったかの研究が進んでいる。その中でも人類が一对の夫婦から別れ出た、とする遺伝学者たちの至った結論は非常に興味深い。バベルの塔の事件が実際に起き、人々のグループが言語ゆえに互いに離れて住み、他と交わらなくなっていく、とするなら現在する多様な人種の特徴が極めて早い時間で生じうるという研究がなされている。異なる人種を親に持つ子供にすぐに肌の色や、身体的特徴の違いが現れることを考えてみれば当然とも思える。 ■